

平成24年第10回 昭島市教育委員会定例会議事録

日時：平成24年10月18日

午後2時31分～午後4時38分

場所：昭島市役所301会議室

昭島市教育委員会

○委員長（紅林由紀子） それでは、皆様おそろいになりましたので、ただいまから平成24年第10回教育委員会定例会を開会いたします。

本日は、雨の中、足元の悪い中、傍聴の皆様にはお越しいただきましてありがとうございます。

会議に入ります前に、本日は午前中から学校訪問がございました。本日行われました光華小学校、それからつつじが丘北小学校の学校訪問について、委員の皆様にご感想なり御意見をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

それではよろしいですか。寺村委員。

○委員（寺村豊通） きょう最初に、光華小学校へ行ってきました。先生の態度ですとか授業の感じとか、特に指摘するようなところもなく、とてもいい雰囲気運営されているなと感じました。また、音楽の先生が男の先生だったのでちょっと聞いてみたら、昭島ではただ一人だっというように伺いました。特に問題になるようなところもなく、運営されているなと感じました。

また、つつじが丘北小も、今回は普通の授業というよりも、結構発表会ですとか実習とかそういった内容が多く、どちらかというとイベント的なものを見学しているような、いつもの授業風景とはちょっと変わった感じがしました。また、廊下ですとか階段ですとかにいろんな展示物というか、そういったものが数多くあり、学校全体がそういったちょっとこう、ほかの学校と違うような雰囲気の学校だなと感じました。また、授業などの内容を見る限りでは、きちんと落ち着いた感じで、運営されているなと感じました。それほど指摘するようなところもなく、以上でございます。

○委員長（紅林由紀子） はい、どうもありがとうございました。

それでは、続きまして石川委員よろしいでしょうか。

○委員（石川隆俊） 今、寺村委員の御指摘のとおりでございまして、2つの学校、若干雰囲気が違いまして、恐らくそこに通わせている保護者なんかのいろんな背景なんかもあるのかもしれませんが、両方ともにそれぞれの特徴がありまして、大変結構に運営されているということですね。

あと木戸教育長から指摘していただいたことなんですけれども、教師の服装がややもすれば少しラフすぎるということもあります。これは、あまりにも服装なんかどうでもいいという、そういう昨今の風潮でありますけれども、やっぱり私なんか古い人間ですから、やっぱり職業というものにはそれなりの服装があると。裁判官はやっぱり裁判官の服を着るし、やっぱりサラリーマンは黒スーツであるというのもあるので、やっぱり教師もサラリーマンかもしれませんけども、1つには、やっぱり教育の面で、やっぱり子供に見せる姿というもののあるのかもしれませんがね。あんまりジーパン、Tシャツみたいな格好というのは、体操はともかく、ちょっと一般の講義にはふさわしくないと。理科の先生が白衣を着ていないというのじゃ、白衣というのは要するに防御の衣類、医者が白衣を着るのは、あれは病気がうつるのを防ぐ意味でありましてね。そういう意味でも、やっぱりいろんな化学薬品か何かを扱う場合には、白衣を着るというのは常識で、やっぱり

そういう職業意識も少しはあってもいいんじゃないかと。ただあんまり言うと、最近若い人は反発するかもしれませんが、その辺はなかなか難しいところで、この委員会でやっぱり学校にある程度上手に、そういうふうに指導するのがよからうと思った次第です。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございました。
続きまして、小林委員お願いします。

○委員（小林和子） 私も、二人の先生方と同じような感じで光華小もつつじが丘北小も、子供たちは落ち着いて学習に取り組んだり活動を活発にしていたと思います。
光華小は、新採の先生が4人、つつじが丘北小は新採はいらっしゃらないんですが若い先生が何人かいらしてということでしたが、どちらも若い先生たちも一生懸命やっているなって、結構子供たちと正対してきちんと指導しているように思いました。

光華小学校では、靴箱の靴がきちっとそろっていて大変気持ちがよくて、生活指導も他の面でもきちっとしていらっしゃるかなと思いましたし、つつじが丘北小では、先ほど寺村委員からお話ありましたように、学校の至る壁面や階段の踊り場などにいろいろ言語に関する掲示物があまして、学校として言語能力推進校としてやっているというお話がございましたけれど、そのようにいろいろ掲示物が工夫されていて、廊下の書道の展示などもこういうところにポイントを、気をつけましょうなんていうことも書いてあったり、大変行き届いた掲示がしてあるなと思いました。2つの学校で子供たちのしっかりと発表する姿や何かも見られて大変良かったなと思います。ありがとうございました。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございました。
続きまして、木戸教育長お願いします。

○教育長（木戸義夫） 子供たちの学習に対する態度というのもほぼできあがってきてるので、あとは一人一人の能力を教員がいかにか引き出してやるか。そこのことだと思います。そうすれば自ずと結果が出てくるのではないのでしょうか。今まであまり結果として表れていなかった部分もあるので、そのへんをこれから少し求めていきたいと思っています。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございました。
委員の皆様方がおっしゃってくださったように、両校とも、とても子供たち頑張っていると。先生方も頑張っている様子が伺えました。
光華小学校は、今年校長先生がかわられて1年目ということだったんですが、非常に意欲を持って学校の経営に当たって取り組んでいらっしゃる様子がわかりましたのでとても安心できました。

そして、つつじが丘北小は、先ほどおっしゃっていただいたように、いろいろな掲示などにも言語活動とか算数とか知的好奇心を非常に刺激していくような取り組みを非常に工夫されているのがとても好ましいなと拝見してきまし

た。

ということで、今年度の学校訪問は、正式な学校訪問はこれで終わりましたけれども、4校とも、今年度訪問した4校とも、とても安心できる状況にあるんじゃないかなというふうに感じました。

それでは、続きまして、またちょっと会議に入ります前に、先日10月12日に石川委員と私で、東京都市町村教育委員会連合会の管外視察研修ということで、沼津市に行ってみいましたので簡単に報告をさせていただきます。

沼津市のほうで2校学校を訪問させていただきました。沼津市立静浦小学校という小学校で、沼津の海の間際に建っている学校で、すぐ後ろは山といったことで、そこでは特にこの間の3.11を経て、やはり防災教育ということにすごく力を入れていて、毎月避難訓練とか津波が他人事ではない問題ですので、5分で裏山まで駆け上るというそのためのルートを整備して、そういう練習を欠かさずしているというような状況を伺ってきました。

そして、この学校は、今後小中一貫校として平成26年に開校する予定で、今新しい場所が整地されて、これから工事に取りかかるという、そういった計画についても伺ってきました。

もう1つ市立の、2校目は沼津市立沼津高等学校中等部ということで、市立の中高一貫校というものがありましたのでこちらも伺ってきました。なかなか立派な学校で、中高一貫の魅力というものも伺ってきました。

簡単ですけども、石川委員、何か行かれた感想とか。

○委員（石川隆俊）　そうですね、後半の沼津市立の中高一貫校というのがありまして、これはできたのは新しい、いろんな経緯を経てできたものになっているんですが、文武両道といっても武の方は得に強くて、柔道場なんかは200畳もある。それから、いわゆるトレーニング機械なんかも20も30もあるような本当に随分大変なお金をかけた地域の体力養成校、実際にいろんなところで優勝したりするようなこともありますので、体力というか体育のほうは非常に成功していると。

一方、これは基本的には受験校になっているし試験を受けて入るのですが、あんまり倍率は高くないですね、せいぜい2倍とか2.5倍ぐらい。それより私はあまり必ずしも人気がないと思いました。そういう意味では、率直に言いますと、知質的なほう、つまり大学入学試験なんかの合格者名簿なんかを見ると、いわゆる本当の一流校は極めて少ないというふうに見えます。ですから、私は市のほうではいろんなアイデアでやったかもしれませんが、本当に私は知的教育・学力のほうで成功したかどうかというのはむしろ疑問に思いました。つまり、もともといろんな地方には旧制の女学校、中学校ができました。高校っていうのがあって。そういうところっていうのは本当にすばらしい実力を示す学校もあまたあるわけですね。その中にこういうものをつくって、はたしてどういうふうなところにこの学校の目標を置いているのかと私は少し疑問に思うんですね。うっかりこういうものをつくるときに、よほど考えてつくらないと難しいなど。むしろ否定的に映ると思いました。それは単なる感想です。

○委員長（紅林由紀子）　はい、どうもありがとうございました。

そうですね。教育長のお話も伺ってきましたんですけれども、沼津市の教育について資料もいただいてまいりました。私が印象に残ったのは環境教育ということで、太陽光パネルを全学校の屋上に設置しているというようなこと。そして教職員研修については、市の教職員研修センターというものを昨年に開設して、そこでO Bの校長先生などが先生となって、この先生の講義は聞きたいみたいな感じで、先生たちがそういう時間を、夜までその先生にいてもらうようにして、仕事が終わった後、そこへ行って先生方が自ら望んで勉強するといったような体制ができてきているというお話が非常に印象的でした。

あと、この静浦小学校という海が目の前にある学校は、こういうところならではのすけれども遠泳の授業があるということで、その最初にプールで泳いでから、それから1週間プールで泳いで、それから海で泳いで、最後に遠泳大会があるそうなんですけれども、やっぱりそういう時におぼれさせちゃいけないので、結構水泳連盟の人たちにボランティアで見守りをお願いしているというような話も伺ってきました。遠泳ができるというのはこういう地域ならではの、ということであつちやうらやましくも感じました。

以上でございます。

それでは、少し前置きが長くなりましたけれども、早速会議のほうに入っていきたいと思います。

では、本日の日程はお手元に配布のとおりでございます。

はじめに、前回の会議録の署名についてであります。前回の定例会が終わってまだ20日間のため、事務局のほうで準備が出来ておりませんので、整い次第、委員に会議録署名をいただきにまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、委員会規則第19条の規定に基づく本日の会議録署名委員でございますが、4番の小林委員と5番の木戸委員でございます。よろしくお願いいたします。

続きまして、日程4 教育長の報告をお願いします。

○教育長（木戸義夫） まず、10月の報告とそれから11月の予定ということで、ここに記載してありますのでよろしくお願いいたします。

まず、パース・モダンスクールとの交流です。10月4日にパースを出発して5日から15日ということで、日本滞在15日までということで、昭島市では11日から15日の5日間、拝島中学校をホスト校として、その生徒のお家にホームステイをするという、こういうような交流をいたしました。それぞれ土・日はまたホームステイの方と一緒にいろんな所を訪問したりして有意義な時を過ごしましたし、また拝島中学校でも、歓迎式では、まず、入場とともに吹奏楽によるオーストラリア国歌の演奏ですね。ちょっと感動的な場面がありまして、子供たちは非常にいい交流ができたと思っております。特に日本語を勉強している子供たちで日本語が上手です。発音がまたすごくきれいということで、やはりこの指導者が日本人であるということで、やっぱり語学というのはネイティブによる指導が重要なのかなと改めて感じたところであります。

昭島市でも、今、ALT、ネイティブスピーカーをお願いしまして時間数はあ

る一定の時間数を取ってありますので、こういうものを学校でも有効に利用するように働きかけていきたいと。有効にというのは例えば1時間でも、一クラスずつやるんじゃなく、2クラスできるような場合には2クラスでやって、そうしたら2倍できると、そのようなことも私のほうから話もしております。そういうふうなことで、少ない予算かもしれませんが、有効にALTの活用を図っていただきたいと。学校側とともにやっていきたいと思います。

それから2点目は、中教審の分科会からの報告であります。「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」と題する報告が、今年の7月23日審議会の初等中等教育分科会から出されました。

市町村教育委員会がかかわる就学相談・就学先決定のあり方についての考え方がまとめられておりますが、子供一人一人の教育的ニーズに応じた支援を保障するためには、乳幼児期を含め早期からの教育相談や就学相談を行うことにより、本人・保護者に十分な情報を提供するとともに、幼稚園等において、保護者を含め関係者が教育的ニーズと必要な支援について共通理解を深めることにより、保護者の障害受容につなげ、その後の円滑な支援にもつなげていくことが重要であり、また、本人・保護者と市町村教育委員会、学校等が教育的ニーズと必要な支援について合意形成を図っていくことが重要である。

そして、就学基準に該当する障害のある子供は、特別支援学校に原則就学するという従来の就学先決定の仕組みを改めまして、障害の状態、本人の教育的ニーズ、本人・保護者の意見、教育学、医学、心理学等専門的見地からの意見、学校や地域の状況等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する仕組みとすることが適当であり、その際、市町村教育委員会が本人・保護者に対して十分情報提供をしつつ、本人・保護者の意見を最大限尊重し、本人・保護者と市町村教育委員会、学校等が教育的ニーズと必要な支援について合意形成を行うことを原則として、最終的には市町村教育委員会が決定することが適当である。このようにされております。

就学先決定についての手続きの流れについては、お手元の報告①の右側に、現在の手続きと改正イメージが示されております。

これまでは学齢簿に基づき就学時健康診断を行い、就学基準に照らし、該当、非該当を決定していましたが、今回の改正により、就学基準により該当となる場合は、まず就学に関するガイダンスを行い、(仮称)教育支援委員会による総合的判断を経て、本人・保護者の意見を最大限尊重し、教育的ニーズと必要な支援について合意形成を行うことを原則とし、最終決定をすることとしております。

本人・保護者と市町村教育委員会、学校等の意見等が一致しない場合については、例えば、本人・保護者の要望を受けた市町村教育委員会からの依頼に基づき、都道府県教育委員会が、市町村教育委員会への指導・助言の一環として、都道府県教育委員会の(仮称)教育支援委員会に第三者的な有識者を加えて活用することも考えられると、これが今回報告をされた考え方の概要であります。

これらは、今後全体会において決定され、順次実施に移されるものと存じますが、今後の動向について、注目していきたいと考えております。

私のほうからは以上ですが、名義使用承認についてはお手元に御配布のとおり5件となっておりますのでよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございました。

教育長の報告が終わりました。パース・モダンスクールの生徒さんたちの来日の件と、特別支援教育の推進ということで、就学判定についての初等中等教育分科会の報告についての報告をいただきました。

ただいまの報告について、質問並びに御意見はございませんでしょうか。

パース・モダンスクールの生徒さんの 11 日から 15 日までの、どんなことをしたみたいなのといったことについて、もう少し情報提供いただければと思います。いかがでしょうか。

○庶務課長（丹羽 孝） 詳しくは次回の定例会のほうに御報告させていただきますが、15 日まで滞在していたものですから、今回に間に合わなくて大変申しわけございません。

それで、11 日から順におって、まず 11 日に私どもで東京のホテルまで迎えに行きまして、その後、三鷹のジブリ美術館のほうを見学しております。そして、1 時 30 分に戻ってきてまして、昭島市を表敬訪問していただきました。その時には副市長はじめ、6 校の校長、そしてまた委員長に出席いただきまして、委員長には英語での御挨拶もいただきましてありがとうございました。それが終わりました、次には拝島中学校に行きまして、ホストファミリーとホストスチューデントとの対面式等を行い、その日は終わっております。

12 日につきましては、先ほど教育長からお話がありましたけれども 1 限目に体育館で全校歓迎ということで先ほどの内容でございます。その後、書道体験とか、英語の少人数学級に入って、もちろん昭島の生徒と一緒にいて、問題とかいろいろ質問に答えたりするようなことをしたということを聞いております。給食と一緒に食べて、その日は、あと華道体験ということで、フラワーアレンジメントですかを行い、その後部活動を体験いたしました。部活動については、剣道とか柔道、バスケ、美術部に入ったという報告を受けております。13、14 日の土日は各ホストファミリーと一緒に過ごしております。

で、15 日は最終日になってしまうのですが、15 日については美術授業の体験とか、日本語の教室、体育の授業と一緒にいて、また給食を食べて、その後はホストスチューデントと一緒に授業を受けたり、最後に茶道体験ということでお茶をやっていました。4 時から修了式ということで、中島拝島中学校校長より修了証書を渡していただき、パースモダンの生徒からは、向こうの様子をパワーポイントを使いながら説明したり、日本での感想を述べたりしてくれていました。最後に、昭島市に午後 8 時ですけど集合して、最後解散ということになったわけですが、その時は今年パースに行った派遣生が 10 人ぐらい来てくれて、この前のお礼をみんなで述べていただいたりしておりました。その後、羽田空港から出発し無事に帰国したと報告を受けております。

以上です。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございました。

子供たちの印象とか、感想とかは。

○庶務課長（丹羽 孝） まず、昭島の子供たちのことなのですからけれども、すごく拝島中学校の生徒は喜んでおりまして、自分から話しかけたりすごくしていました。外国人が珍しいわけではないんでしょうけど、会議室を一生懸命のぞいたり、すごく友好的にしてくれたと思っております。大変いい刺激を与えられたなと思っております。

向こうの生徒は、先ほど教育長の話もありましたが、大変優秀で日本語も本当にうまくて、全然日本語ができないという子もある程度ちょっとはしゃべれたりしてまして、本当に努力をしている姿がよく見えました。日本語と英語では大分差があると思うのですけれども、日本語を上手にしゃべれておりましたので、英語と比べれば全然日本語のほうが難しい割に、あれだけやっていたところを見れば、拝島中学校の生徒に刺激を与えられて、英語だったらもっとできなきやいけないのかなと思っていただけたと思います。中には、言葉がしゃべれないからあまり近づくこともできないし、やっぱり恥ずかしがる子供たちもいましたけれども、それはそれなりに刺激を与えられたからいいかなと思っております。

私からは以上です。

○委員長（紅林由紀子） はい、どうもありがとうございました。

それでは、後半の就学判定につきまして、就学相談等につきまして何か御感想や御意見ございますでしょうか。

特にこちらはよろしいですか。後ほど本日特別支援教育の推進計画についてもございますので、何かございましたらその時にまとめておっしゃっていただければと思います。

それでは、以上で教育長の報告を終わります。

続きまして、日程 5、議事に移ります。

議案題 36 号 昭島市教育委員会表彰被表彰者について提案をお願いします。

○庶務課長（丹羽 孝） 議案第 36 号 昭島市教育委員会表彰被表彰者について御提案いたします。

本案件は、昭島市の教育文化の振興発展に貢献し、その功績の顕著な者及び他の模範となる成績または行為のあった者に対して昭島市教育委員会表彰規定に基づき表彰を行うもので、平成 24 年度昭島市教育委員会表彰被表彰者を決定していただくため、御提案いたすものであります。

議案の被表彰候補者でございますが、平成 24 年の 10 月 5 日に開催いたしました昭島市教育委員会表彰審査委員会について慎重に審議し、その結果、本定例会に推薦を受けた者でございます。

なお、表彰審査委員会の委員は、小学校長会より、中神小学校の悴田校長、つじが丘南小学校の石川校長、中学校校長会より、昭和中学校の岩下校長、清泉中学校の小谷野校長と教育委員会の各部課長から構成した委員会でございます。委員長は、学校教育部長が務めております。

各被表彰者候補者の説明をする前に、表彰基準につきまして簡単に御説明をい

たします。大変申しわけございませんが、議案資料の最後の 29 ページの昭島市教育委員会表彰基準を御覧ください。

今回の、被表彰者につきましては、児童・生徒の表彰ということで、第 2 条第 2 号特に他の模範となる行為があったものが 8 名、第 2 条第 3 号クラブ活動部活動またはその他の活動において、著しい成果を上げた者が 11 名、第 2 条第 4 号、前 3 号のほか、委員会が表彰するのが適当であると認めた者が 2 名、職員の表彰ということで、第 4 条第 2 号教育の振興、研究または改善に努め、特にその功績が顕著である者が 5 名となっております。

それでは、各表彰候補者の該当事由等を御説明いたします。資料の前に戻っていただき、3 ページからの被表彰者推薦調書を御覧ください。まずは第 2 条関係、児童・生徒表彰でございます。

八代陽菜さん、東小学校 3 年生です。第 47 回関東地域春期水泳競技大会で 8 歳以下女子 50 メートル自由形に出場されております。主催が関東水泳連絡協議会ということで教育委員会表彰の第 2 条第 3 号のアの、公的機関が主催する全国規模または関東規模の大会等に出場したものであるということで推薦を得ております。

続きまして、成田華さん、拝島第 4 小学校の 4 年生でございます。この方は第 5 回のアンダー 15 ボクシング全国大会小学校女子 30 キロ級で優勝をされております。主催が日本プロボクシング協会ということで、公的機関ということではないんですが、ここで表彰基準の第 2 条の 4 ということで、先ほど言いました具体的な事由で委員会で協議いたしましてこれも該当するということ推薦を得ております。

続きまして、高橋梓沙さん、昭和中学校の 2 年生です。第 52 回全国中学校水泳競技大会女子 100 メートル平泳ぎに出場されております。主催が日本中学校体育連盟ということで、表彰基準の第 2 条第 3 号アに該当するということで推薦を受けております。

続きまして、横山朋香さん、昭和中学校の 2 年生です。第 36 回関東中学校水泳競技大会で女子 200 メートル平泳ぎで優勝、女子 100 メートル平泳ぎに出場、主催が関東中学校体育連盟ということで、表彰基準の第 2 条第 3 号アに該当するということになります。

続きまして、大野一真さん、瑞雲中学校の 2 年生です。第 39 回全国中学生テニス選手権大会に出場されております。主催が全国中学校テニス連盟ということで表彰基準の第 2 条第 3 号アに該当するということで推薦を受けております。

続きまして、石井悟司さん、瑞雲中学校の 3 年生です。第 39 回全日本中学校陸上競技選手権大会、男子 800 メートルに出場されております。主催が日本中学校体育連盟ということで表彰基準の第 2 条第 3 号アに該当するということで推薦を受けております。

続きまして、加藤雅樹さん、瑞雲中学校の 3 年生です。この方は 2012 U S S A 全米選手権大会に出場ということで、この方につきましては福生リトルシニアに在籍しておりまして、日本代表ということで 18 名が選ばれてこの全米選手権大会に出場ということになっております。主催等は公的なものでないことから表彰基準の第 2 条第 4 号、先ほどありました具体的な事由を委員会で協議いたしまして推薦ということになりました。

続きまして、菅谷美玖さん、清泉中学校の3年生です。第25回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会に出場、主催が日本バスケットボール協会、ということでこの方につきましては東京都代表ということで24名の枠に入りまして都道府県対抗の選手権大会に出場したということで表彰基準の第2条第3号アに該当ということで推薦を受けております。

続きまして、安田丈樹さん、清泉中学校の2年生。第40回関東中学校陸上競技大会男子2年の100メートルに出場されております。主催が関東中学校体育連盟ということで表彰基準第2条第3号のアに該当するということで推薦を得ております。

続きまして、齋藤樹さん、拝島中学校の3年生。第52回全国中学校水泳競技大会男子100メートル背泳ぎ、男子200メートル背泳ぎに出場されております。主催が日本中学校体育連盟ということで表彰基準の第2条第3号アに該当するということで推薦を得ております。

続きまして、熊谷俊さん、拝島中学校の3年生。第36回関東中学校水泳競技大会男子100メートル背泳ぎに出場されました。主催が関東中学校体育連盟ということで、表彰基準の第2条第3号アに該当するということで推薦を得ております。

続きまして、角銅啓多さん、拝島中学校の3年生です。第40回関東中学校陸上競技大会男子1,500メートルに出場されました。主催が関東中学校体育連盟ということで表彰基準の第2条第3号アに該当するということになりました。

小野大和さん、拝島中学校の3年生です。第51回東京都中学校総合体育大会柔道競技で個人男子90キロ超級で第3位となりました。主催が東京都教育委員会ということで表彰基準の第2条の第3号ウということで、公的機関が主催する東京都規模大会等で上位3位相当の賞を得たものということで推薦を得ております。

続きまして、小山隼さん、昭和中学校の1年生です。この方は人命救助ということで、皆さんご存知かと思いますが、平成24年7月30日に起きました拝島橋付近の多摩川において、おぼれている男性を川岸まで引き上げ、心肺蘇生を行い人命救助をしたということで、全部で9名の生徒で行ったことですが、昭島の生徒が8人いたということで、今、小山隼さんから続きまして、方がすべて該当いたします。名前と学校名だけ読ませていただきます。佐藤克陽さん、昭和中学校の1年生。坂口亮太さん、昭和中学校の1年生。福原大輝さん、清泉中学校の2年生。武井裕太さん、清泉中学校の2年生。市川憧瑠さん、多摩辺中学校の1年生。市川響希さん、多摩辺中学校の1年生。木村光葉さん、多摩辺中学校の1年生、ということで同じ表彰理由で人命救助ということで、計8人が推薦されております。

続きまして、24ページからは、第4条関係の職員の表彰でございます。

関芳彦さん、この方につきましては、つつじヶ丘北小学校の学校歯科医といたしまして5年間、多摩辺中学校の学校歯科医として13年間、計18年6カ月をしていただき9月30日に退職されております。

続きまして、森田郁朗さん、昭島市社会教育委員といたしまして在籍4年ということで4年で9月30日に職をおやめになられて、該当事由が表彰基準の第4条の2、先ほど説明を忘れましたけれども昭島市教育委員会が委嘱する非常勤特別職として4年以上勤務し、退職したものに該当するということで推薦を得ており

ます。

続きまして、白崎節子さん、昭島市民図書館協議会委員を4年11か月行っていたが、6月30日に職を退いております。表彰基準については第4条の2ということになります。

植田珠枝さん、昭島市公民館運営審議会委員を在職10年していただき、9月30日に職のほうをおやめになられております。表彰基準については第4条の2に該当いたします。

最後に、下村昌子さん、この方も昭島市公民館運営審議会委員を在職4年していただき、9月30日に職を退いております。表彰基準につきましては第4条の2に該当するということでございます。

以上、簡単な御説明で大変恐縮ですが候補者26名について、被表彰者の決定の御審議をよろしくお願いします。

なお、教育委員会表彰式につきましては、11月3日文化の日午前10時から市役所市民ホールで表彰式を予定しておりますので、教育委員の皆様には御出席をお願いいたします。

以上です。

○委員長(紅林由紀子) はい、ありがとうございました。

議案の第36号について事務局からの提案が終わりました。

本件に対する質疑、御意見、御要望などお受けいたしますが何かございますでしょうか。

今回非常に被表彰者が多い印象があるんですけども、特にこれは何か特別なことがあったわけではなく、たまたまという感じですか。

○庶務課長(丹羽 孝) たまたまというか、みんなが、まずクラブのほうは大分頑張って成果が出たということだと思います。また、あとは人命救助の生徒が8人おりますので、合わせると多くなりました。

以上です。

○委員長(紅林由紀子) ありがとうございます。何かございますでしょうか。

○委員(石川隆俊) 若干、私の興味なんですけれどもいろんなスポーツがありますけれども、小学生にもボクシングがあると。それで日本プロボクシング協会が主催しているわけですから本格的なんだろうと思いますけれども、小学生もやるんですね。

○委員長(紅林由紀子) あと、水泳がやはり非常に盛んというか優秀な成績をおさめる児童生徒が多いという印象がありますけれども、過去にもこの委員会表彰で、かなりの生徒さん方にも表彰してきたと思いますけれども、例えば、すばらしい記録を毎年毎年出すようなケースもありますね。そういった場合は、一度表彰されたら次はないとか、何かそういった規定みたいなのはあるんですか。

○庶務課長(丹羽 孝) これにつきましては1年ごとで、その該当事由にあたるものに

ついては行うということですので、例えば中学生の場合だったら頑張れば3年続けて表彰が受けられるということでございます。

○委員長(紅林由紀子) 過去、今回被表彰者として挙がっているこの方たちの中にそういう生徒さんもいますか？

○庶務課長(丹羽 孝) 確か、15 ページの小野大和さんについては、今回は柔道ですけど、小学校6年の時に事由が違いますけど、多分相撲で受けていると思います。

○委員長(紅林由紀子) それは、毎年その成績によって表彰されることはできるということですね。ということでございます。

ほかに何かございますでしょうか。特にはよろしいですか。

皆さん頑張ってすばらしい成績をあげられましたので表彰させていただきたいと思います。

それでは、お諮りしたいと思います。議案第36号につきましては、原案のとおり決することに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(紅林由紀子) はい、御異議なしと認め、議案第36号は原案どおりに決しました。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、続きまして、議案第37号 昭島市立中学校の学校歯科医の委嘱について説明をお願いいたします。

○学務課長(浦野和利) 議案第37号 昭島市立中学校の学校歯科医の委嘱について提案理由並びに内容について御説明いたします。

学校歯科医の任期は平成23年4月1日から平成25年3月31日となっておりますが、多摩辺中学校の学校歯科医、関芳彦氏が9月30日に御逝去されたために、残りの任期について、昭島市立小中学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の任用、職務等に関する規則、第2条第1項の規定に基づき委嘱するものでございます。

新たな委嘱予定の学校歯科医について御説明いたします。

木村秀樹氏 昭和59年に歯科医師国家試験に合格され、日本歯科大学歯学部歯科保存学教室第1講座を経て平成9年に協和歯科医院を開業されています。

委嘱予定の学校歯科医の任期は、平成24年10月18日から平成25年3月31日まででございます。

以上でございます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長(紅林由紀子) はい、ありがとうございました。

議案第37号について事務局からの提案が終わりました。

本件に対しての質疑、御意見、御要望ございますでしょうか。

特によろしいですね。この件につきまして。

それでは、お諮りいたします。本件について原案のとおり決することに御異議

ございませんでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(紅林由紀子) はい、御異議なしと認め、議案第 37 号は原案どおりに決しました。

それでは、続きまして、議案第 38 号 昭島市文化財保護審議会委員の委嘱について提案をお願いいたします。

○社会教育課長(片岡国幹) 議案第 38 号 昭島市文化財保護審議会委員の委嘱について提案理由及びその内容について御説明いたします。

本案件は、平成 24 年 10 月 31 日付で文化財保護審議会委員の任期が満了することに伴い、新たに委員を委嘱する必要があるため提案するものでございます。

委嘱予定委員の名簿はお手元のとおりでございます。

なお、議案に掲載されている委嘱予定委員は全員が再任でありますので履歴等の紹介は省略をさせていただきます。任期につきましては平成 24 年 11 月 1 日から平成 26 年 10 月 31 日までの 2 年間でございます。

以上、よろしく御審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○委員長(紅林由紀子) はい、ありがとうございます。

議案第 38 号についての事務局からの提案が終わりました。本件について、対して御質問や御意見ございますでしょうか。

○委員(石川隆俊) これは、文化財というのはさまざまなもの含むだろうと思いますが、史跡みたいなものから、ずいぶん範囲としては専門分野を広くとっていますけれども、この具体的に、例えばそういうような必要が起こった時に、市のある本を編さんすとかそういうふうな具体的なやることというのはある程度決まっているんですか。つまり、審議会が担当する役割については、具体的にはこういうことをするというような。

○委員長(紅林由紀子) 審議会の具体的な担当役割といったことですね。

よろしいでしょうか。

○社会教育課長(片岡国幹) 文化財の保護審議会につきましては、文化財保護法と市の文化財保護条例に従いまして、文化財保護審議会条例で、委員さんをお願いしているところでありまして、この委員さんそれぞれどういう分野ということでの指定はございませんけれども、今、お手元にお配りしています資料のとおり、考古学を初め、遺跡ですとかそういったものについての知識の幅広い範囲の方に参加していただいておりますので、市史の編さんですとかそういうものにも携わっていただいております。

その際にどなたがということは、その市史の編さんだったり、その目的に従って得意な分野の方をお願いをするというような状況でございます。

○委員(石川隆俊) というのは、いくつかそういう、この町だけじゃなくていろんなとこ

ろでそういう試みがあり、実際に例えば古い歴史を表したり、あるいは珍しい化石が出たらそれを書くとかそういう時に、この委員はそういうようなことは審議をするわけだけでも、専門家なんかに依頼することも含めて、そういう全責任をこの方たちが持つということですか。

どういうことをこの方たちが審議して、動き出すかという、そういう手続きです。例えばある必要が起こった時に、御自分だけで全部できるということとも限らないことがありますよね。

○社会教育課長(片岡国幹) 御指摘のとおりでございます。以前、昭島のクジラで言えば、やはりこれはクジラ関係の専門の方をお願いしたりということでございます。審議会の実質的な内容としては、その市の指定文化財等は教育委員会から諮問していただいてそれに対する答申をするというようなことをしております。

○委員(石川隆俊) じゃあ定例的な会議というよりもこの、特に社会教育関係のベースに必要とみたら召集して、それでそれを実際にその部分をこちらの教育委員会のほうと一緒にそれを進めていくっていうそういう手続きですかね。

○社会教育課長(片岡国幹) 条例上は、2カ月に一回の定例会と、それから臨時会を開けることになっておりますので、定例的には2カ月に一回行って各種の報告を受けていただいたり必要に応じて審議をしていただいております。

○委員(石川隆俊) よくわかりました。

○委員長(紅林由紀子) よろしいでしょうか。ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。よろしいですね。

それでは、お諮りしたいと思います。

議案第 38 号については原案のとおりに決することに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(紅林由紀子) はい、ありがとうございます。

御異議なしと認め、議案第 38 号は原案どおりに決しました。

続きまして、議案第 39 号 昭島市公民館運営審議会委員の委嘱について提案をお願いします。

○市民会館・公民館長(辻みえ子) それでは、議案第 39 号 昭島市公民館運営審議会委員の委嘱について提案理由及び内容について御説明申し上げます。

本議案につきましては、9 月に提出できませんでした 1 名につきまして議案として今回提出させていただくものでございます。

今回委嘱いたします 1 名の委員につきましては新任となります。お手元の資料に記載のとおりでございますが、社会教育の関係者として、昭島市社会福祉協議会の推薦をいただきました、秋山友子氏でございます。この方は社会福祉協議会

の理事の職にある方でございます。委員の任期につきましては、平成 24 年 11 月 1 日から平成 26 年 9 月 30 日までとなります。

以上、よろしくご審議を賜りますようお願い申し上げます。

○委員長(紅林由紀子) はい、ありがとうございました。

議案第 39 号について提案を終わりました。

本件につきまして何かございますでしょうか。

残りの 1 名ということでの御提案ですので、よろしいですね。

それでは、本件について、原案のとおりを決することに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(紅林由紀子) それでは、御異議なしと認め、議案第 39 号は原案どおりに決しました。

それでは、これで議案の審議が終わりました。

続きまして、協議事項に移ります。

協議事項 1 昭島市特別支援教育推進計画(案)について説明をお願いします。

○指導主事(稲富泰輝) 協議事項 1 昭島市特別支援教育推進計画(案)について御説明いたします。

この計画は昭島市のすべての学校にのみならず、関係機関と連携し、特別支援教育を推進していくために計画を策定する必要があるため今回提案させていただくものです。

さきに、東京都教育委員会では、東京都特別支援教育推進計画が策定され、現在では平成 23 年度から第三次の実施計画に入っております。また、昭島市でも平成 22 年度から昭島市教育振興基本計画を策定し、その中で特別支援教育を施策として位置付けております。

この内容を昭島市で具体的に推進していくために、平成 25 年度から 5 年間をかけた昭島市特別支援教育推進計画を策定していく予定でございます。

計画の策定のために、平成 23 年度から特別支援教育推進計画作成委員会を開催し、昨年度にその骨子について教育委員会でも説明させていただきました。平成 24 年度は、委員の構成メンバーを拡大し、3 回の討議を重ねてこの案の提案となっております。

まずこの計画の構成でございますが、冊子の 3 ページ目に基本的な考え方を掲載させていただいております。ここでは昭島市の特別支援教育の体制のことと現状、そしてこの計画の方向性について示させていただきました。

4 ページ以降につきましては、「推進体制の整備」「教育内容の充実」「人材の育成」「関係機関との連携」「啓発事業」の 5 項目のプランを示させていただいております。

各内容の構成について説明させていただきますので、本日は 10 ページを開いていただけますでしょうか。

10 ページにはプランの 2 「教育内容の充実」施策名「個別の教育支援計画の充

実」が示されております。このページで見方について説明いたします。まず最初に、施策の策定の背景を示し、支援計画の有効活用について示しております。そして、次にありますのは課題であり、関係機関との連携、個別の教育支援計画の活用の推進を提示しております。上段の一番下には、主に取り組む内容を担当課を明らかにして示しております。この施策では2点示しております。中段では、平成 25 年度から5年間でどのように進めていくか進行スケジュールを示しております。下段では、この施策を受けて学校がどのようなことに取り組んでいくかが書かれており、すべての学校に置いて特別支援教育が推進されるように示しております。

本日は時間の関係で、普段のすべてを説明することができませんが、施策を示す中でどうしても説明が必要な用語がございます。この用語解説については 26 ページ以降に示しております。こちらについてもあわせて報告させていただきます。26 ページの所写到書いてある要望について、28 ページ以降で詳しく説明をさせていただきます。

こちらの計画案について、今後のスケジュールを説明いたします。本日御協議いただいたこと、こちらを御承認いただければ、11 月 16 日の市の文教委員会で報告した後に、パブリックコメントを実施に入ります。なお、パブリックコメントの実施方法につきましては、11 月の定例教育委員会で報告させていただきます。予定ですが、年内にパブリックコメントを行った後、出された内容につきまして、1 月の定例教育委員会で報告し、2 月の定例教育委員会でこちらの案を議案として提案する予定です。

以上でございます。御協議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（紅林由紀子） はい、どうもありがとうございました。

昭島市特別支援教育推進計画の案というところでございますけれども、非常にボリュームがございますが、この中身につきまして、あるいは基本的な考え方などにつきまして何か御意見や質問などございますでしょうか。協議ということでございますのでぜひいろいろと御意見をおっしゃっていただければというふうに存じます。

○委員（小林和子） 質問で。5 ページに、主に取り組む内容、中段の年次計画の上なんですが、⑤「特別な支援を必要とする子供への早期からの支援」ということですが、具体的にどのくらいの早期というか、保育園、幼稚園とかそういうところまで考えていらっしゃるのか、学校に入ってからのことなのか、そういうふうなことお伺いしたいと思います。

○指導主事（稲富泰輝） こちらにつきましては、平成 24 年度からのこちらの計画について子ども育成課と保育園の代表者の方に入っておりますので、基本的には乳幼児期、幼稚園、保育園の段階からのことを検討しております。よろしくお願いいたします。

○委員（小林和子） ありがとうございます。やはり小さい時から特別な支援を、必要な

お子さんについてはできるだけ早いうちからのほうが効果が大きいかなと思いますので、ぜひそのように実現すればいいなと思います。

○委員長（紅林由紀子）　そうですね、はい。本当に私も小林委員の御意見に全く同感でございます。やっぱり小学校に入るまでの段階で、子供は結構性格的な部分というのは、ある程度できあがってくる部分が大きいと思いますので、やはり自尊心というところとの関わりとしても、やはりそういう支援が必要だけれども適切な支援が得られないために自分がだめな子なんじゃないかみたいなふうに思っている子供は、やはり学校に入っても、やはりそういうことで勉強にちゃんと打ち込めない部分もあるんじゃないかなというふうに思いますし、そういったことは非常に大事だと思います。そして保護者に対しても、やはり支援があることでやっぱり保護者のこういったいろいろな、さまざまな障害についての受け入れる気持ちというのもできてくると思いますので、早期ということが非常に重要なんじゃないかなと感じました。

ほかにいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員（小林和子）　何ページかにわたっているんですが、通常の学級と通級指導学級との連携をさらに推進するというようなことで、なかなか通級に子供が行っているお子さんが、自分の所属する学級の子供たちとうまく交流が図れなかったりということがあかなと思いますので、こういうことを推進するのはいいことだなと思います。

それからそういうことに関連して、6 ページの一番下に「教員は特別支援教室での指導について、理解を深める」と、さらに 11 ページに「各学校で実施している交流及び共同学習の取組情報を学校間で共有し、改善等に生かす」この辺も、その下も「通常の学級の教員や」ってあるんですが、同じように通級指導の子供たちと在籍校の学級の子供たちとより共同学習ができるように、先生方にそういう取り組みをさらに研究していただきたいというようなことと、それからそれに関連して 13 ページに学校が行うことの真ん中辺に、「通常の学級の担任による特別支援学級や特別支援学校の見学を行う」、これはぜひ行っていただきたい、実際にその特別支援学級もそうですし、できれば特別支援学校、あきる野学園とかいろんな所あります。私たちもそういうところ参観にまいるして、すごく実情がよくわかったりしましたので、普通の先生方には忙しいところでなかなか難しいかとは思いますが、夏期研修中とかいろんな機会にそういうことを実施していただければと思います。

先ほどの通常の学級と通級指導学級との連携ということで、昭島はこれとは別に学力向上ということで学力を向上させることが課題で、それとの兼ね合いで難しいかなとは思いますが、やはり学力向上だけではなくて、子供たちが心豊かな、他人にも思いやりを持つような、そういう特別支援を必要とする子供たち、あるいは大人になってからもそういう人たちに思いやりを持ったり支援できたりする、そういう心豊かな幅広い人に育ってほしいなということ、学校時代からこういう交流を図ることはとてもよいことだし大切なことではないかなと思います。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございます。

そうですね、本当にそういう子供とかかわることで、やっぱり学ぶことがすごくたくさんあると思いますし、そういうことを学ぶことの大切さにより多くの先生も含め、子供も含め保護者も含め、気づいてほしいなと感じます。それがよりよい世の中を築くんじやないかなというふうに私も感じております。

ほかには何かございますでしょうか。

○委員（石川隆俊） こういうふうなことというのは、もちろん社会生活あるいは学校生活をする上で、難しい方をこういうふうな分類をしているんだけど、もうちょっと学校生活はできるんだけど、そのグレーゾーンで極めて難しい人だっているわけですね。そういうことでやっぱり先生方がそういう心理学とか精神衛生学とかそういうものに、やっぱりある程度興味を示して、専門家までいかなくてもそういう子供の心理をよくわかるように、先ほど話が、講習会を開くとかもすごく大事だと思うんですね。でも実際にはみんな、恐らくすべての子供がみんなトラウマなんかみんな持っているわけで、みんな誰だって自分に自信、自尊心がなく、つらく、自分はだめな人間だなんて思う子はたくさんいるわけですね。それは学力においてもそうだし、容貌、容姿もそうだし、みんなそういう意味で人間というのはそういうものを負いながら生きているわけです。だからそれでも我慢してみんなやっているわけで、だから人間というのはそもそもそういうものだとは私は思うんですけど、これはそういう意味で先生方がそういうことに、特に興味を示して勉強するというか、そういう機会を与えて教育委員会がそういうのをぜひつくってほしいと思いますね。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございます。

ほかには何かございますでしょうか。

このプランがここまで進んできて非常に膨大なプランで、読ませていただいても非常にいろいろな課題、現状、それからその課題など本当にきめ細かく見ていただいているなと感想を持ちました。それをうまくここまで、それに対してどういう手をうったらいのかというようなことを非常にいろいろ具体的に書かれていて、本当にこういう予定がすべて実現したらどれだけハッピーなことになるかなというふうに胸躍るというか期待高まるというような感じです。東京都は第三次の特別支援計画をつくって進めていくということなんですけど、ここまで来るにはやはりこういったいろんな障害を持った保護者の人、それからその御本人、あるいは周りの人々、そういう人に尽力してきたたくさんの人たちの地道な努力というか、その働きかけがやっぱり世の中をこういうふうに動かしてきたんだなというふうに感じますと、私が教育委員になったころからは、ちょっと本当に、ああこれだけ進んだんだなという意味でも非常に感慨深いものがございます。

ということで、これをぜひ実現させていただきたいと思うんですけども、プラン自体としては非常に膨大ですね。これを本当にここで29年度までに全部できるんだろうかといったような部分もあるんですけども、何かそれにはそれをするための仕組みとか優先順位とかそういった意味で何か実行していくための手だ

てみたいなのでお考えになっていらっしゃることはございますか。

○指導室長（宇都宮聡） まずこの5カ年計画でいろいろ予算的な背景もいろいろあるかなというふうには思っていますけども、やはり指導室のほうが中心になって進行管理、いろんな課にわたっていますので、エリアネットワークを含めて指導室のほうで中心になって進行管理していかなきゃいけないなと思っていますし、できれば将来的にはこれをここを専門的に扱う担当部署みたいなものをつくっていきなというふうには思っていますけれども、ちょっとこの辺はまだこれから調整の部分ですので頑張ってみます。

○委員長（紅林由紀子） わかりました。なかなか難しい部分も。人為的に限られた部分と予算的に限られた部分もあって、大変な部分も多いとは思いますが、何とぞこの計画を、まだ案の段階ですけれども、一つでも二つでも本当に実行、実現させていただければなというふうにこれを拝見して感じました。

ほかには何かございますでしょうか。何か御質問でも結構なんですけれども。特にはよろしいですか。

それでは、この後パブリックコメントもあるということでございますので、またそれが終わりましたからでも、いろいろまたお読みいただいて、委員の皆様にはまた何か御意見いただければと思いますので、ではきょうはこれでこの件については終わりにしたいと。本当にどうもお疲れさまでございました。

それでは、協議事項はこれで終わります。

それでは、続きまして報告事項に移ります。

報告事項1 平成25年度予算編成方針について説明をお願いいたします。

○庶務課長（丹羽 孝） 報告事項1 平成25年度予算編成方針について御説明をいたします。平成25年度の予算編成につきましては企画部より10月11日に市の予算編成方針が出されました。その内容について簡単ではありますが御説明させていただきます。

予算編成方針の冒頭の日本の経済状況につきましては、今さら私が説明するには及ばないと思いますので下段の本市の財政状況からちょっと御説明いたします。

まず、23年度決算状況でございますが、市税収入が前年度比で微増となったものの、扶助費や特別会計への繰出金の増加などから、約7億円の普通交付税の交付を受けてもなお、財政調整基金からの繰り入れ及び臨時財政対策債の借り入れなどにより、約15億円の財政不足を補うなど大変厳しい状況にございました。

また、平成24年度においても、当初予算では基金からの繰り入れ及び臨時財政対策債の借り入れを合わせて20億8,000万円の計上を行い、その後、2回の補正予算を経て、前年度からの繰越金や行財政健全化の効果額を反映してもなお、まだ約19億円の計上が続いている状況にあります。

また、平成25年度以降の財政環境についても、原価の社会経済情勢から引き続き市税収入や各種交付金などの一般財源の収入の増加に転じる見通しになく、一方で扶助費や医療、介護などの特別会計への繰出金などの財政需要は増加の一途をたどっておりますので、一段と厳しい状況に置かれていると予想されております。

す。

このような状況を受けまして、平成 25 年度予算は直面する喫緊の課題に的確に対応しながら元気都市あきしまの実現に向けて、第五次総合基本計画の着実な推進を図るとともに、自主・自立の行財政運営の観点から、将来を見据えた確固たる財政基盤の確立を目指すことを基本に編成することとなります。

それでは、7 ページを御覧ください。

昭島市は、枠配分額により予算編成を行っており、予算を経常的経費と政策的経費に分け、そのうち経常的経費から職員人件費や扶助費等の固定的経費を除いた経費を枠配分対象として、今年度からは課ごとに算出された枠配分枠内で予算を計上することになります。なお、平成 25 年度に新しく行う事業や施設の大きな工事などについては、実施計画を提出し、採択されたものについては、政策的経費となりますので、この枠配分額には含まれておりません。

3 の要求基準額の考え方の (2) 要求基準額の算出方法を御覧ください。②に書いてあるんですが、下記の項目を除き、基本的には対前年度比 5 % から 1 % の減額と書いてございます。その下にいくつかの例外、例えば土地の借り上げ料とか燃料費とか電気とかガスとかそう書いてありますが、この辺は省いた中で、先ほど言った減額となっておりますので、結果的には昨年とは同額の予算を組むことができず、何らかの削減や減額をして予算編成をすることになります。

裏面の 8 ページを御覧ください。ここに教育委員会の各課の枠配分額が記載されております。例えば庶務課でいいますと、ここに要求基準額ということで 7 億 7,479 万円と記載しております。その隣に増収または減額、まあ減額なんですけど、803 万 1,000 円、が黒三角ということで昨年よりは 803 万 1,000 円減額をさせたよと。それで残ったと言っては変ですけども、7 億 7,479 万円の中で予算を組みなさいということでございます。その下にずっと各課ございますがそういう同じようなことで予算を組むことになります。

この予算編成方針に基づきまして、現在平成 25 年度の予算編成を行っております。前回の教育委員会の前に行いました教育委員会の皆様方からいただいた平成 25 年度の予算への意見等を踏まえまして、平成 25 年度の予算案を今つくっております。完了次第、委員の方々に改めて御説明をいたしますのでよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございました。

報告事項 1 についての説明が終わりました。本件に対する御質問や御意見などございますでしょうか。

非常に厳しいということですね。

○委員（小林和子） 質問なんですが、9 ページになるんでしょうか。平成 25 年度一般会計当初予算歳入歳出一般財源見込額というところなんですけど、その中に、ほとんどがマイナスの中で、市たばこ税というのが、25 年度見込みで増えているんですが、現実問題、今、禁煙とか何かでたばこを吸う人も減っているんで、この辺そんなに増えるのかなってそういう点で、今年度 23 年度から 24 年度、今年度はど

うだったんでしょうか。増えたんでしょうか。

○主幹（中村智行） 私、去年まで課税課にいたものですから、その辺で情報を提供させていただきます。

健康志向によりまして、たばこの本数は減っておるんですけども、23年の10月よりたばこが値上がりした関係で、増税になりまして、本数は減ったんですけども市税は増加しました。今年度は。また25年度についても、本数は減っているんですけども、10月までは旧の税率で計算しておりますので、その増税分が若干増えてこの計上になった次第でございます。

○委員長（紅林由紀子） はい、どうもありがとうございました。

前の御経験を生かして、ありがとうございました。よろしいですか。

ほかには、何かございますでしょうか。

この厳しい中で、事務局の皆さんやりくり御苦労されていると思うんですけども、この件についてはよろしいですか。

お金を使わずにやるにはどうしたらいいのかというのは主婦のやりくりもそうでございますが。

○委員（石川隆俊） 昔、競艇か何かがあったような気がしましたけど。

○委員（寺村豊通） 今、なくなったんじゃないですかね。

○委員（石川隆俊） 何市かがやっているのがありましたね。

○教育長（木戸義夫） 6市で共同開催している競艇事業があります。

○委員長（紅林由紀子） かなり人気のあれではないということですね。

○教育長（木戸義夫） いわゆる収益事業というんですけど。

○委員長（紅林由紀子） ではなくなったんですね。

○教育長（木戸義夫） 各市では本音では、やめたいと思っているのでは。そういうような状況までいっているということだと思います。

○委員長（紅林由紀子） はい。よろしいでしょうか。

ということで、大変だと思いますがやりくりをぜひお願いいたします。いろいろな力を持った人なんなりお金で頑張れないところは人ががんばるみたいな、というふうに。ぜひ知恵を絞っていただければと思います。よろしくをお願いいたします。

それでは、この件については終わります。

続きまして、報告事項2 昭島市立学校適正規模適正配置等について（中間答

申) (案) に関するパブリックコメントの結果および中間答申について報告をお願いいたします。

○学務課長（浦野和利） 報告事項2 昭島市立学校適正規模適正配置等について中間答申案に関するパブリックコメントの結果および中間答申について御報告いたします。

本年6月より開催しております、昭島市立学校適正規模適正配置等審議会において検討いたしました「昭島市立学校適正規模適正配置等について（中間答申）」（案）について、平成24年9月3日から10月2日までの30日間パブリックコメントを実施いたしました。

この結果6人の方から御意見をいただいております。意見の提出方法でございますがファックスによるものが1人、郵送によるものが1人、学務課まで持参された方が2人、メールによる提出が2人でございます。御意見は件数にいたしますと21件になっております。

内訳といたしましては、つつじが丘南小学校とつつじが丘北小学校の統合にすることが6件、拝島第一小学校と拝島第四小学校の統合にすることが11件、その他にすることが4件でございます。提出された御意見は10月9日に開催されました審議会において審議され、次ページ以降のとおり審議会としての考え方がまとまっております。

御意見の内容といたしましては、つつじが丘南小学校と北小学校の統合につきまして実際にはいつから統合するのですかという御意見や、統合された際、どちらの学校に統合されるのですかという御意見などがありました。これに対して審議会の考え方としては、統合の時期は当審議会が決定する事項ではありませんが早急な対応が望ましい。統合後の学校は学区の中央に位置するつつじが丘北小学校が望ましいとなっております。拝島第一小学校と拝島第四小学校の統合につきましては、小規模校には小規模校のよい点があるという御意見、平成13年の答申にもあるのに、ここにきて再度の答申には疑問が残るという御意見などがありました。これに対して審議会の考え方としては、単学級の長所、短所について検討した結果、望ましい学級数は1学年2から3学級であるという結論に達しました。またここに来て再度の答申には疑問が残るという意見に対しては、中間答申案でも述べているとおり、拝島団地の建てかえに伴う児童数の推移を見守る必要があったために現在まで答申はされていませんが、東京都が新たな住宅建設は促進しない方針を示し、拝島団地の建てかえ事業も凍結となっている現状を踏まえ、改めて児童数を予測し、両校の統合を答申するものですとなっております。

その他の意見といたしましては、統合の結果、使われなくなった学校の跡地利用について市民の意見を十分に参考にしていただきたいなどの御意見がありました。審議会の考え方は、跡地利用については当審議会の審議対象ではありませんが、教育委員会を含めた市全体で跡地が有効利用されるよう最終答申に記す予定ですというものでございます。

続きまして、中間答申についてでございますが、パブリックコメントに対する審議会の考え方もまとめたため、平成24年10月15日、審議会の松本会長より教育長に中間答申がされました。

以上御報告申し上げます。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございました。

この件につきまして、何か御質問や御意見ございますでしょうか。

パブリックコメントの結果および中間答申についてということでございますが。

ちょっと2点、お聞きしたいんですけれども、1点につきましては、このパブリックコメントの3ページのナンバー13に審議会の考え方ということで、35人学級が今、計算上は1、2年は35人、それで第3学年以上は40人で計算して教室数等を計算しているということなんですけれども、これ実際には、全学年35人、すぐに統合があるわけではないと思いますが、その統合時期を考えても、この全学年35人にはならないだろうという見通しの上でこういうふうにおっしゃっているのかどうかということを1つ伺いたいのと、もう1点につきましては、パブリックコメントには、今、書かれておりませんけれども例えば答申の中身では、2、3学級が望ましいということが書かれていたと思いますが、実際に都からの先生方の配置についてなんですけれども、やはりある程度の規模になると配置される先生方が増えたりとか、その点でのメリットというのはあるのかどうかということ。以前私もよくわからないんですけれども、ある程度の規模になると理科専科の先生がもらえとか、そういうことがあるのかどうかというよくわからないんですが、何かそういった面での1学年2、3学級というのは例えば学校に活気が出るとか学び合うとか競い合うという点でのメリットということはメインに書かれていたと思うんですけれども、そういった先生方の配置の面でのメリットは何かないんでしょうかと、その2点についていかがでしょうか。

○学務課長（浦野和利） 1点目の35人学級の動向ということでございますけれども、国のほうの計画では平成29年度までだったと思うんですけれども、中学校を含めて35人学級を実施するという計画案ができております。ただ、先生の増員が必要になりますので予算を伴うものですので、単年度ごとに決定されていくということで、現在、第1学年、第2学年については実施されているわけなんですけれども、来年度、先日の新聞報道では、1、2と来たので3となるのかということだったのですが、それは第何学年をやるのかは、都道府県単位で決められるというようなことなので、必ずしも3年生になるかどうかというのはまだわからないんですけれども、そういう状況ですが、文部科学省では概算要求を出した段階ということでまだ実際に予算が決まったわけではありませんので、来年度第3学年になるのかはわかりませんが、35人学級が実施されると決まったということではないということで、今回の答申につきましては現行法どおりの形で出させていただいているという状況でございます。

以上でございます。

○指導室長（宇都宮聡） 今の話に追加させていただきたいと思うんですけれども、1年生については教職員の定数基準法というのがあって、法的に35人学級って決まっているんです。2年生については、東京都の条例の中で加員配置、要するに35人として配置しますよという形なので、もしかしたら切られるかもしれないんで

すよ。予算が。その辺の説明会がこの後 11 月ですか、11 月に説明会があると思います、学級定数の説明会があると思いますので、その時にはっきりと来年度、3 年やるのかやらないのかという東京都の方針がはっきりすると思いますが、見通しは暗いかなというふうに思います。

今年度の新規採用教員の選考の人数が東京都の人事計画課のほうで計算しているのは 3 年の 35 人で計算していません。人数的に考えると、3 年生の加配は考えずに団塊の世代の方のご退職の人数で 3,000 人ですから、かなりの数になっておりますので今でも難しいのかなと。

それから学級数が増えたときのメリットということですがけれども、ごめんなさい、確かな数字ちょっと今出てこないんですけど 13 学級か、もしくは 14 学級以上になると、1 人専科が増えて、配置ができるというのがありますので、まずさっき理科とおっしゃったのですがそれは学校長が選べますので。

○委員（小林和子） 以前は理科はなかったんです。家庭科ということでしたけれど今は変わってきたと。

○指導室長（宇都宮聡） はい、変わって学校で選べるようになったんですけども 1 人プラスすることはもちろんできます。もっとでかくなれば、26 学級以上になれば養護教諭が 2 人ついて、27 学級になると副校長が 2 人になるとか、段階的なものがあるんですけども、そこまで大きくなると今度逆に大変なので、適正規模というやはり 2、3 学級ということなのかなと思います。それについては文科省からも方針出していますので、それにも基づいていると思います。

以上です。

○委員（小林和子） 私も、この適正規模適正配置等審議会の答申に出ている、8 ページにある小学校は 1 学年 2、3 学級、単学級は望ましくないということと、中学校でも同じように 4 から 6 学級が望ましいとこういうふうなことがやはり望ましいのではないかなと。7 ページにいろいろ単学級のよさ、メリット、デメリットみたいなことを書いてありますが、やはり学校として単学級というのは、まず学校全体学校行事をする上でも担任の先生の負担も大きく、1 人で全部やらなきゃならない。かつて私は、自分が担任の頃 4 クラスあった時ね、4 人いれば、例えば運動会の行事する時に音楽担当、子供たちの指導する人とかっていろいろ手分けができるけど、1 人で一切合財やるとなると、結局だれか補助をして音楽をやってもらう人とかってしないと、なかなか大変だっていうことであります。いろんな面で学年で相談してということで 2、3 クラスはあったほうがいいのではないかと思いますし、子供のことを考えても、単学級ですとそのまま 6 年間クラス替えもなしでということになると、確かに人間関係は親密になるかもしれませんが、逆に悪かった場合に、中でうまくなかなか仲がよくなれない子供がいた場合などにクラス替えもないとそのままずっといつてしまうという、そういう面もあります。

それと、今子供たちというのは、子供が少なくて兄弟関係も少なくて、なかなか切磋琢磨ということも少ないので、クラス替えなどをしてまた新しいお友達と

その中でどうやって仲良くしていくとかそういう面の学ぶところもあると思いますし、いろいろ違うクラスとすれば、お互いに自分のクラスで頑張ってよそのクラスに負けないようにとか、学力にしろ運動の面にしろ、そういうよさとかいろいろあるかなということもあります。そういう面がやはり単学級ですとあまりそういうところがないと、なかなかたくましさという面でも育ちにくいんじゃないかなということがあります。

それと、私かつて聞いたことがあるんですが、クラスが、人数が多いから大変ということはないんですね。クラス人数多いと、手の全くかからない、先生が言ったらそれでずっと自分でどんどんやってしまうような子供たちも結構多いのでその子供たちが手のかかる子供たちの面倒を見るとか、それが勉強の面にしても運動のことなんかにしてもあります。また逆になかなか学習が一斉指導の中で理解できない子供については、それが35人だろうと40人だろうと、個別に指導しなければならないそういうお子さんもいるわけですね。ですから、むしろ、今ここで、今40人学級ですけどね、その40人のままでもそういう個別指導をする補助員とかそういう人がいたほうがいいのかと私は思います。

そういうことで、いろいろ地域としては長年歴史のある自分たちの学校だから、その学校に行きたいという気持ちは、あるいはおじいさん、おばあさんの代からその学校に行っていたといういろんな歴史があったりして統廃合というのはなかなか受け入れられない方がいらっしゃるかもしれませんが、こういう世の情勢、子供が少ないという、こういうことからするとそういうふうになっていくのはやむを得ないのかなと思います。

○委員長（紅林由紀子）　ありがとうございました。

ほかには、何かございますでしょうか。

寺村委員。

○委員（寺村豊通）　パブリックコメントの内容が何か見てみますと、廃校になるというほうの保護者ですとかやっぱり児童ですとかっていうほうの心配が強いと思うんですね。ですから、いずれにしてもやっぱりこういった統合は必要となってくるわけですので、それに対して保護者を含めてこちらのほうが親切丁寧にできるだけ説明をしてあげるといったことがやっぱり大事なんじゃないかと思いますのでその辺もよろしくお願いします。

○委員長（紅林由紀子）　はい、そうですね。ほかにはいかがでしょうか。

これはまだ中間答申ということでございますので、これで最終になってそれから住民保護者の説明会っていうようなそういった流れになるんでしょうか。

今寺村委員から懇切丁寧な説明をというようなお話ありましたけれども、その段取り、流れとしてはどんな感じになるんでしょうか。

○学校教育部長（細谷訓之）　この中間答申の後に最終答申がありますが、統廃合については中間答申でほぼ結論が出ております。最終答申については、あと学区をどういうふうに区切るといった審議をして最終案をまとめていくということになって

います。ですから統合についてはこの中間答申で審議会の結論がでましたので、住民説明とか、住民の合意形成ということではお話をしていく時期に入っていると思うんですけど、まだ具体的にスケジュールは決まっておりません。

ただ、今寺村委員からもお話がありましたように丁寧な説明をしていきたいと思っています。

○委員（石川隆俊） 現実的に学校、これはもちろんパブリックコメントは大事けれども、やらなきゃならないことは間違いないので、そのように学校はある程度決めてあるんだけど、ちょっと問題があるとすればあれですね。もともとの町会とかそういうものの地域とずれちゃうということですよ。だけど実際問題、ぼくはそれを都内の人に聞くんだけど、もう町会なんかに入っていない人もすごく多いし、お祭りなんか全然関係ないというような人も事実とても多いんですね。だからそうなってくると、それが昭島市にも及んでくるならば、もうあんまりそういう町会の活動なんていうのはごく一部の人がやっている、お祭りも一部の人がやるということになっちゃうかもしれないわけですよ。これはだからそういう現実があるような気がするんですね。今どの辺なのか。古いところは恐らくとても氏神様に対して一生懸命やっているところがありますよね。だけどそれが部分的にはそうじゃなくなっちゃっているところもあるわけですよ。本当に都内なんかの人に聞くとあれですよ。隣だって知らないですよ。それが現実なんですね。

○委員長（紅林由紀子） そうですね。先日、先ほどの沼津に行ったときに武蔵野市の教育委員長さんとずっとバスで席が隣でずっとお話ししてきましたんですけども、武蔵野市には町内会がないそうなんです。町内ブロック運動会なんか絶対ないっていう、そういうところもあるのかと。あるのが当然と思っていたのがやっぱり地域によって全然違うんだと、自分の固定観念を崩されたような気持ちになりましたけれども、ないはないでいろいろ大変なことがあるというようなお話も伺ってまいりました。

○委員（石川隆俊） だんだん、この辺が、だから本当東京の都心部のようなものが拡大してくるような形に慣れてくるとそういうふうな現実になりますね、きっと。

○委員長（紅林由紀子） でも逆に今、震災以降、そういう地域のつながりというか助け合いの組織みたいなものの重要性も言われていますので、武蔵野市の場合なんかは、逆に今までないがために、今そのかわりとなるものをつくるのに一生懸命大変な思いをしているという話も伺ってまいりましたので、昭島市には偶然というか、皆さんのご努力でずっとそれが存在し続けたわけですから、それをうまく利用というか使って機能させていくしかないのかなという気持ちも、私は。

○委員（石川隆俊） 都内なんかでも一部のね、浅草とか深川とかあっちにはあるんですよ。だから場所によっても違うんですよ。だけどそれはあったことではないんだけど。現実なもので。

○委員長（紅林由紀子） 実際問題、今、小学校区でウィズユースが大体組織されていると

思うんですけれども、これ統廃合した場合はこのウィズユースについてはどういう形になっていくんでしょうか。

○学務課長(浦野和利) 基本的な考え方の4番ですか、統合された場合に小学校地区単位で活動している生涯学習校区協議会やウィズユース、青少年員やスポーツ推進委員、PTA、子供会などにも影響があるため、なるべく早い時期に関係者へ情報を出してほしいというような御意見がございまして、それに対して審議会では「学校と地域で活動されている団体とのかかわりは大変重要であると認識しています。統合を進める過程では適正に情報を開示し関係団体への理解を得ることが必要と考えます」という考え方になっております。

○委員長(紅林由紀子) はい、わかりました。そうですね。理解を得ることはもちろん必要だと思うんですけれども、具体的な問題として子供会はその中の小さい単位ですから、どこの学校でもその子供会の中の子たちが同じ学区にあるんだったら、こっち行っても、こっち行ってもはっきり言ってそんなに問題ないかなと思うんですけど、ウィズユースは小学校区で活動してますよね。ということは、合併した場合、こっちのウィズユースは消滅してしまうのか、合同の大きなウィズユースになるのかとかそういった問題に具体的にはなっていくと思うんですけれども、その辺はウィズユース同士で話し合うような形にするのかある程度の形を市のほうから提示するのかその辺についてはどのようにお考えなんですか。

○社会教育課長(片岡国幹) ウィズユース、青少年とともにともにあゆむ委員会につきましては子ども家庭部の所管ではございますので具体的なところは私どもでお答えはできないんですけれども、委員長おっしゃいますように、1校に1つのウィズユースですので、学校が統合されればやはりウィズユースについても統合というような形をとっていかざるを得ないのかなと思います。

○委員(小林和子) それに関連して。もちろん統合すれば1つとは思いますが、むしろそういうほうがこれから先のことを考えるといいのではないかなという気もするんです。というのは、どの地区の子供会は保護者ですから別ですけど、ウィズユースの場合、役員や世話をしてくださる方たちがかなり高齢化してらっしゃるんですね。本当にいつもそういう時に先頭に立って、私なんかそういうウィズユースの活動の時、いつも今運動会なんかに行ってお会いすると、かつて10年以上前ですか。私たちがお世話になった方たちがそのまままだやっていらしてかなり高齢化していらっちゃって、結構大変でもやり手がないとか、かわってくれる人がいないとかでやってらっしゃる方もいらっしゃるんじゃないかと。もちろん子供とかかわるのが楽しいからということでやってくださってるんでしょうけれど、そういう点でも大勢の方がやってくれば交代ですとかいろんな方法が考えられるので、大勢いるということはある面で負担が少なくなるのではないかなというふうなことを考えて、悪い面ばかりではないかなと思います。

○委員長(紅林由紀子) はい、わかりました。やっぱり長年続けてきたことを変えるとい

うのは結構大変というか、人間にとってはそれなりにストレスになることだと思いますので、今小林委員からおっしゃっていただいたような前向きな気持ちで本当によくなるメリットをぜひアピールしていただいて、そのよくなっていく姿をやっぱりどれだけ訴えるかということも非常に大事なのかなとも思いますので、ぜひその点もよろしくお願いいたします。

ほかにはよろしいでしょうか。特にこの統廃合につきましてはこの中間答申に上げられた学校規模等については委員の皆様方は異論はないというふうな感じでよろしいですか。

(「はい」との声あり)

○委員長(紅林由紀子) それでは、これはパブリックコメントの結果及び中間答申については終わりたいと思います。

よろしいですね。

それでは続きまして、報告事項3 第59回昭島市成人式について説明をお願いします。

○社会教育課長(片岡国幹) 報告事項3 第59回昭島市成人式について御説明いたします。お手元の資料を御覧ください。

日時は平成25年1月14日成人の日でございます。式典は11時から午後0時30分を予定しております。会場は、フォレストイン昭和館2階のシルバンホールでございます。

教育委員の皆様には、後日案内状を送付させていただきます。御出席いただきますようよろしくお願いいたします。

今回の対象者でございますけれども平成4年の4月2日生まれから平成5年4月1日までに生まれた方になります。本年の7月1日現在的人数でございますけれども男性548人、女性538人、合計で1,086人になります。

式典につきましては、第1部を式典、第2部を軽食による立食のパーティー形式として、詳細については現在実行委員11名で検討しているところでございます。

本年も実行委員の皆さんの御意見をいただき実りある成人式を開催できますよう努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

なお、本年度の予算でございますけれども224万円になっております。よろしくお願いいたします。

○委員長(紅林由紀子) はい、ありがとうございます。

第59回昭島市成人式ということで1月14日に行われます。よろしくお願いいたします。この件につきまして何かございますでしょうか。

○委員(石川隆俊) すぐわからなかったらいいんですけど、仮に1,000人以上の人が二十歳になって市民権を得るわけですけども、本当何人ぐらいここで生まれたんでしょうね。昭島市で。

○社会教育課長(片岡国幹) 今回成人を迎える1,086名の方の生まれた、育ちについては

ちょっと私どもは把握してございませんで。

○委員(石川隆俊) 相当、全部かなり動いてきているかもしれませんね。

○社会教育課長(片岡国幹) 毎年、今年もありましたが、市外の方からのお問い合わせもありまして、昭島で育ったんだけど成人式には出られますかというようなお問い合わせをいただくことはございますので、生まれ育ちは昭島だけでも、二十歳になって外に出ていらっしゃるよというような方は相当人数いらっしゃるかと思います。

○委員長(紅林由紀子) そういう方も出られるんですか。

○社会教育課長(片岡国幹) はい、参加については特にこういう形式でやっておりますので幅広く受け入れられますので、お受けいたしております。

○委員(石川隆俊) そうすると市民じゃなくてもいいわけだ。

○社会教育課長(片岡国幹) 現在市民じゃなくても育った方については参加していただけます。

○委員長(紅林由紀子) それはうれしいですね。恩師の先生もいらっしゃるし。

この件につきましてはよろしいですか。

それでは、ご出席のほうどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、終わります。

続きまして、報告事項4 第58回昭島市新春駅伝競走大会について説明をお願いいたします。

○スポーツ振興課長(石川千尋) それでは第58回昭島市新春駅伝競走大会について御説明させていただきます。

この大会は、来年1月13日、日曜日に行います。開会式、コース等は前回と変更ございません。今大会も盛り上げていきたいと思いますが、すでに中学校からPTAそれぞれ1名ずつ出いただきまして、1チームつくるといような話もいただいております。事故等がないよう、警察と消防、立川バスとしっかりと打ち合わせをしましてまいりますのでよろしくお願いします。

以上です。

○委員長(紅林由紀子) はい、ありがとうございました。

ということでございますが、この件につきまして何かございますでしょうか。

よろしいですね。それでは、よろしくお願いいたします。

続きまして、報告事項5 スポーツ祭東京2013開催及び2020年オリンピック・パラリンピック東京招致機運醸成事業について説明をお願いいたします。

○国体推進室長(武藤茂) 報告事項5 スポーツ祭東京2013開催及び2020年オリッピッ

ク・パラリンピック東京招致機運醸成事業について御報告を申し上げます。

ただいま報告事項4で報告がありました毎年開催しております第58回新春駅伝競走大会において、アトランタ、シドニーオリンピックのマラソン競技のメダリストである、エリック・ワイナイナ氏を招き、スポーツ祭東京2013及び2020年オリンピック・パラリンピック東京招致の機運醸成事業を行います。当日は選手とともに走っていただいたり、開閉会式に参加していただき大会を盛り上げるとともに選手への激励等をしていただく予定でございます。

また、大会の前日の12日には昭和公園陸上競技場において、中学生を対象としたランニング教室及びふれあいトークを実施いたします。この中では正しい走り方、ふれあいトークの中ではあきらめない気持ちまたオリンピックのすばらしさなどユーモアを入れながらゆっくりお話をさせていただく予定でございます。

なお、新春駅伝競走大会のゴール地点には啓発物品としてエアアーチを設置する予定でございますのでよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長(紅林由紀子) はい、ありがとうございました。

マラソンのメダリストの方がいらっしゃるということでございますが、この件につきまして何か御質問や御意見ございますでしょうか。

すみません、不勉強で申しわけないんですけども、この方はどこの国の方ですか。

○国体推進室長(武藤茂) 出身は、この方はケニア出身の方ですけど、高校卒業後、日本に参りまして、駅伝やマラソンの有名な企業に入社しまして、ケニア代表としてアトランタ、シドニー、それぞれで銀、銅メダルを取りました。日本に対して親日家でございます、現在日本に住んでおり、今も日本で生活しております。日本ではマラソン競技の普及の仕事なども行っておることから今回はお招きすることにしたさせていただきます。

○委員長(紅林由紀子) はい、ありがとうございました。やはりメダリストに、五輪のメダリストに実際に走り方を教えてもらうという非常に貴重な機会ですので、ぜひPRのほうよろしくお願いいたします。

では、この件についてはよろしいでしょうか。

それでは報告事項6 昭島市公民館運営審議会答申について説明をお願いいたします。

○市民会館・公民館長(辻みえ子) 昭島市公民館運営審議会答申について御報告申し上げます。

昨年3月11日の東日本大震災以降、地域社会での人と人とのつながりの大切さ、それに関して地域の拠点としての公民館が果たす役割などが公的機関のホームページなどにも掲載されております。

このようなことから、昭島市公民館運営審議会条例第2条の規定に基づき、昨年11月14日付で「地域でのつながりを強めるために公民館ができること」を諮

問とし、審議会においてご審議いただき、先月お手元の資料のとおり答申をいただきました。

では、恐れ入りますがお手元の資料を御覧ください。

2 ページ、第Ⅰ章においては、前回の答申内容を踏まえつつ、「昭島市公民館における今次答申の意義と課題状況」について明らかにし、6 ページ第Ⅱ章では、今年の3月に開催した公民館利用者懇談会に参加した86団体に対して行った「昭島市公民館利用団体アンケート調査の結果」について分析し、そこから読み取れる課題について述べております。

続きまして、10 ページ第Ⅲ章「昭島市公民館への提言」では、第Ⅰ章と第Ⅱ章のまとめとして、これからの公民館の管理運営と事業計画についての改善案と諸提案を掲げて提言としております。

なお、第Ⅱ章のアンケート調査では、活動内容が同様の、他の利用団体と交流を望んでいる団体が約8割、また、活動の成果を地域などで生かしている団体が約7割、公民館で協働事業があった場合には協力したいと思っている団体が約9割、それぞれ回答があり答申13ページの「おわりに」において、前向きな思いを実際の事業に反映させることの必要性、市民と公民館との距離を近づけるための諸施策を展開することが地域とのつながりをより一層強めるものとなると結んでおります。

今後はこの答申を踏まえ、諸提案につきましては、すでに今年度から試みているものもございますが、可能なところから実施に向けて検討してまいります。

以上でございます。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございました。

公民館運営審議会答申についてということでございましたけれども、この件につきまして何か御質問や御意見、御感想がございますでしょうか。

非常に、アンケートの中で、今館長から御説明ありましたけれども、前向きな、つながっていききたいといったようなお答えや、地域のために役立ちたい、協働事業にも協力したいといった非常に高い数字がこんなにあるんだなど、私もちょっと逆に驚いた次第なんですけれども、やっぱりそうした気持ちを、やっぱり無駄にしないというか、ぜひくみ上げて、本当にやっぱり前向きな人たちに先ほど予算苦しいというお話もありましたけれども、本当に御活躍いただければ本当にありがたいことだなと思いますし、そういう力を無駄にしちゃもったいないなというふうにも感じました。

ほかにはいかがでしょうか。

○委員（小林和子） 私もこれ読ませていただいて、平均年齢が60代が約半数、70代以上が27%、やっぱりこれは現状としてやむを得ないことかな、お仕事を持っている方はなかなかお仕事で忙しくてとなると、やはり。また、60代以降の生活をどうするかということが、またいかに豊かに過ごすかということが大事なことで、そういう方たちがこういう生きがいを持ってこういう公民館活動を支えているのはいいことだな、なんて思います。

それで、最後のところ、具体的な事業計画の改善案という12ページの中で各種

いろいろある中で、特に（２）の 1)防災教育事業ということね、これやはりこれからいろいろ東京直下とかいろんなことが言われている中で、やっぱり公民館というしっかりとした震災対応もしっかりとできるような、そういうところが拠点となって防災教育、もちろん学校もそうですけれど、大人に関してはそういう防災教育などもぜひ、ここにありますように進めていただいたり、地域の方たちにもそれをぜひ、その情報を発信していただくとかってしていただけるとありがたいなと思います。

○委員長（紅林由紀子） ほかにはいかがでしょうか。

はい、寺村委員お願いします。

○委員（寺村豊通） やっぱり市内でもいろいろ活躍している方は結構多数いらっしゃると思いますので、そういう市民も含めてですけれども、そういった活動の場を発表する場というんですかね、そういったところが公の施設でもって整備されているというのはとても大事なことだと思いますので、今後ともそれに見合った運営をしていってほしいと思います。

○委員長（紅林由紀子） そうですね、公民館と市立会館のネットワークというようなことがこの中に書かれていましたけれども、具体的なイメージがちょっとわからないというか、どういったことを理想とされて書かれているのかなというのがあったんですけれども、実際に活動場所として公民館だけじゃ足りなくて市立会館を利用しているという現状があると思いますけれども、そのネットワークづくりというのはどういったものをイメージされていらっしゃるのでしょうか。

○市民会館・公民館長（辻みえ子） 実際に昭島、公民館は１館しかございませんので、建設の目的、市立会館と公民館とは違うんですが、現実的に利用されている方にしてみれば、公民館というのは学習施設以外で同じように団体の方が利用している部屋もございますので、公民館の分館的役割も現実には果たしていると思います。実際には、公民館の主催講座等で地域公民館事業というのがございまして、各公民館よりも離れた地域で、西とか東のほうで市立会館を利用して出前講座とかそういうものを実際には行っております。そういうものはある程度やはり増やしていく、公民館まで来れない方、そういうことを考えて、ソフト面ではそんなふうに考えております。

○委員長（紅林由紀子） はい。より出前講座をもう少し充実させていこうという方向があるということですね。よく理解できました。

あとはPRということについても触れられていましたけれども、本当に公民館のことに限らず、やはり市の広報もあって、いろいろな広報をされているわけなんですけれども、意識のある人は非常によく見るんですけれども、見る習慣のない人は全部見過ごすというところもあるので、何かうまいPR方法があればもっといいなと思うんですけれども、ぜひ続けて御検討をいただければというふうに思います。

では、よろしいですか、この件につきましては。

それでは、答申いただいたことにつきましてぜひいい意見は取り入れて今後に生かしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、以上で報告事項1から6までの説明が終わりました。報告事項7から15につきましては資料配布のみとなっておりますが事務局への質問などございましたらお願いいたします。

7は昭島市教育委員会職員の人事異動について、8は第15回歯の保健衛生講演会「命をねらう歯周病」、9 学校給食用食材の放射性物質検査（2学期分）の実施について、10 第44回昭島市産業まつりにおける「学校給食展」について、11 2012 青少年フェスティバルについて、12 スポーツ祭東京2013 広報誌（第7号）について、13 第29回全国都市緑化フェアTOKYO「本のリサイクル展」について、14 子ども読書活動推進事業「杉山亮氏のものがたりライブ」実施について、15 昭島市公民館主催事業について、ということでございますが、特によろしいですか。

それでは、また何かございましたら直接事務局のほうにお願いいたします。

それでは、続きまして、その他の事項につきまして何か事務局からございますでしょうか。

よろしいですか。それでは、ないようですので、最後に次回の教育委員会日程についてお願いいたします。

○庶務課長（丹羽 孝） それでは、次回の教育委員会定例会日程についてでございますが、日時が11月15日、木曜日午後2時30分から、場所は市役所301会議室で行いますのでよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（紅林由紀子） はい、ありがとうございました。11月15日木曜日、午後2時30分からこの場所ということでございます。よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして本日の日程はすべて終了いたしましたので第10回定例会を閉会いたします。

皆様、お疲れ様でございました。

平成 年 月 日

署 名 委 員

4 番 委 員

5 番 委 員

調 整 担 当